

## G7ドーヴィル・パートナーシップ高級実務者会合の開催

平成28年5月27日

中東第一課

1 3月2日、我が国は、G7ドーヴィル・パートナーシップ(DP)高級実務者会合を三田共用会議所において開催した。

2 同会合にはG7、アラブ諸国、地域パートナー諸国、国際機関の代表が参加し、アラブ諸国の安定的な民主的体制への移行と経済社会改革の努力を支援するための具体的方策を議論した。

3 会合では、DPの重要性を再確認し、安定の重視、中小企業(SME)支援の重要性、女性・若者の参画など、多くの重要な課題について意見の一致が見られ、またOECD経済ガバナンス・コンパクトのフォローアップが提示されるなど、今後の方向性を明確化した。また、今回の会合はこれまで分かれていたDPの財務トラックとガバナンス・トラックが統合された初の会合であり、効率化だけでなく両トラック間の相乗効果も実現することができた。

### 【参考1:ドーヴィル・パートナーシップ概要】

1 G7ドーヴィル・パートナーシップは、2011年初頭から本格化したいわゆる「アラブの春」を受け、2011年5月のドーヴィル・サミットにおいて、アラブ諸国における安定的な民主的体制への移行と経済社会改革の努力を支援する枠組みとして設立。国際金融機関や国連機関等に対して協調を呼びかけるとともに、移行国に対する二国間援助の強化、貿易・投資促進、域内統合支援、人的交流等を謳った「アラブの春に関するG8宣言」を採択。

2 参加国・機関:G7、アラブ移行諸国(エジプト、モロッコ、チュニジア、ヨルダン、リビア、イエメン)、地域パートナー諸国(サウジアラビア、トルコ、UAE、カタール、クウェート)、国際機関(OECD等)

### 【参考2:成果文書概要】

(1)ドーヴィル・パートナーシップはG7、地域パートナー、国際関係機関との対話を行う重要なプラットフォームであり、アラブ移行諸国に対して、必要な国際的フレームワークを提供するものであり続けるべき。

(2)過激派の伸張、紛争、難民を含む人道的危機に起因する不安定に直面しているアラブ移行諸国の困難を考慮。

(3)国別アプローチの重要性を再確認。

(4)ドーヴィル・パートナーシップのフォーカスを一層明確にすることの重要性を共有。主要な要素は以下のとおり。

(5)ガバナンス・トラックとファイナンス・トラックを統合。ドーヴィル・パートナーシップ・プロセスは、一連の会合で適切にマネージされ、各国指導者に報告される。

(6)MENA 移行基金で承認されたプロジェクトの着実な実施に焦点をあてる必要性及びベスト・プラクティスを抽出し実施機関と共有するための監督・モニターの実施を確認。

(7)MENA 移行基金の250百万ドルの目標へのコミットメントを確認。

(8)より重要な課題(プライオリティ分野)にフォーカスする必要があるとの点を確認。これらは、ガバナンス分野での支援、投資の促進、中小企業支援を助けるガバナンスの強化、金融包摂、雇用創出、グッド・ガバナンス、女性や若

者の参加, 社会融和といった諸点を含む。

(9) 女性のエンパワーメントの重要性に留意し, 日本が2016年にこの分野に関する有識者会合を開催することを歓迎。

(10) 過去の提案, 取組及びイニシアティブのフォローアップの必要性を強調。経済ガバナンスに関するコンパクト, 金融包摂に関するアクション・プラン, ACT SMEアクション・プラン(注: 2012年米議長国時に採択)の更新, の実施に特別の重要性。

(11) コンパクトのフォローアップのため, スtockテークングレポート及び毎年のプログレス・レポート発出を含むOEC Dによる詳細な実施計画を歓迎。

(了)